

「住民と保健医療福祉従事者の地域づくり評価指標の開発」への

御協力をお願い

1. 地域づくり評価指標開発の目的

地域づくりが求められていますが、地域づくりの進み具合を評価する指標はありません。指標化ができれば、地域づくりの先進地域をあきらかにしたり、それぞれの市町村の地域づくりの課題や進み具合を明らかにできると期待できます。

評価指標の開発の目的は、“地域づくりを進めること”です。具体的には、

- 1) 地域づくりのどの側面がどれくらいできているかを、住民と保健医療福祉従事者それぞれが評価し、話し合う材料とし、共有することで、地域づくりを活性化すること
- 2) 他自治体との比較評価で、先進地域や課題を「見える化」したり、地域づくりの進捗評価に活用できること

を目指しています。

この指標開発により、地域づくりの経験や担当者個人の能力に頼りすぎない地域づくりに貢献できると考えています。

2. 調査への協力のメリット

調査にご協力いただいた市町村には、以下の報告をいたします。

- 1) 住民ボランティアと保健医療福祉従事者による地域づくり得点の比較（合計得点、できていると評価された指標とそうでない指標）

例えば、2015年度「自治体施策に対する JAGES プロジェクトの効果評価のための調査」結果報告書の図（以下、図1を参考）のような形式で、結果をお返しします。

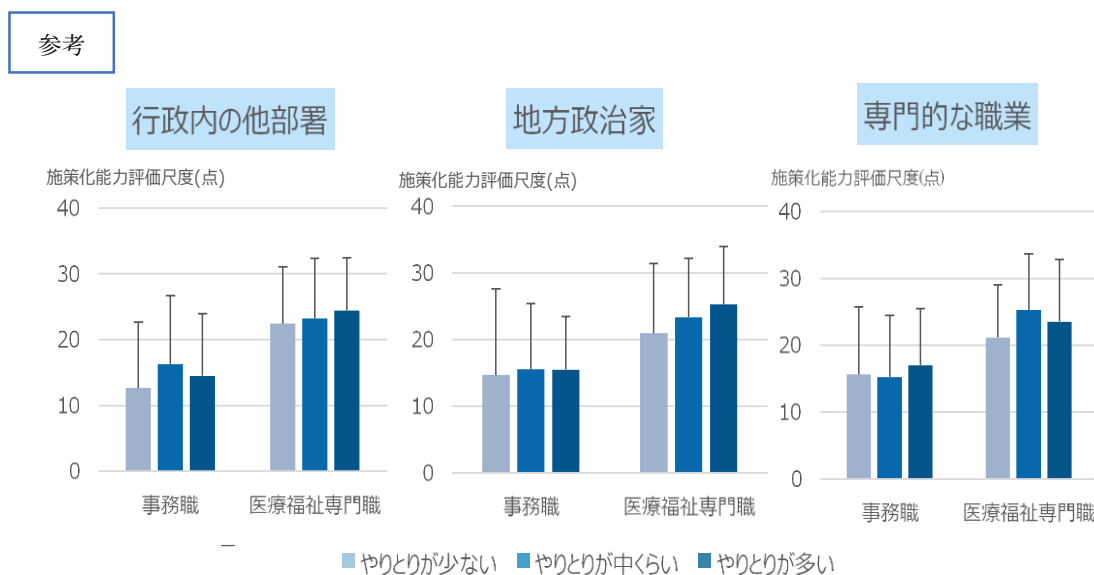
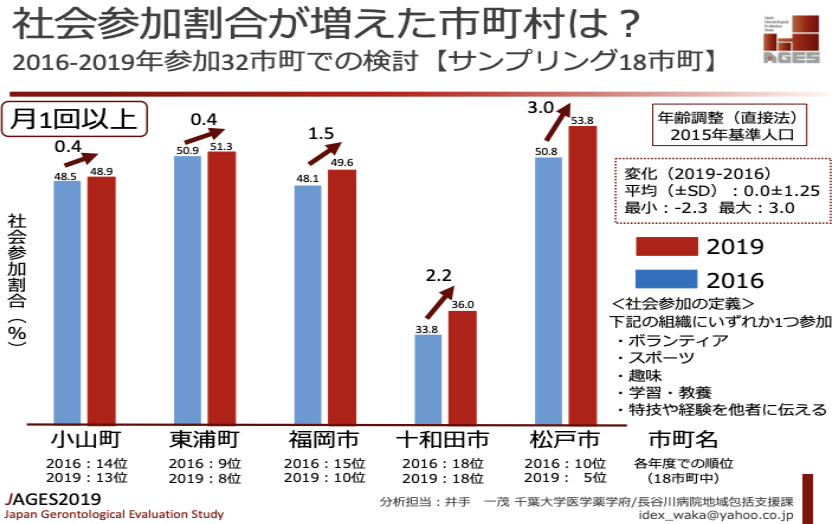


図1：担当者との仕事内外のやりとりの量・職種ごと、施策化能力評価尺度得点(48点満点)

2) 他の市町村との地域づくり得点の比較による特徴や進捗度

例えば、2016年-2019年のJAGES調査参加市町村で、以下の図のように「介護予防活動に参加した高齢者の社会参加割合が増えた市町村」は、地域づくり評価指標のどの項目が高かったのかを明らかにし、本調査にご協力いただいた市町村の結果はどうだったかをお示しします。



3. アンケート調査の概要

1) 調査期間

8月下旬～10月頃を予定しています。

2) 調査対象者の選出

調査対象者は、介護予防事業および活動（サロン活動など）で中心的役割・お世話役・ボランティアをしている**住民**と、事業及び活動の担当・関わりを持っている**保健医療福祉従事者**（行政機関以外で働く人も含む、保健師・医師・歯科医師・管理栄養士・栄養士・歯科衛生士・理学療法士・作業療法士・精神保健福祉士・社会福祉士・介護福祉士などであり、地域づくり活動に従事・参加しているもの）です。

調査対象者（住民）の選出は、各サロンや体操の活動（例えば、小学校区ごとの活動）ごとに10名程度を選出していただきたいと思います。活動の規模が小さい場合（活動している人が10名以下）は可能な人数を選出していただきたいと思います。

3) 調査項目

対象者の特性と地域づくり調査票96項目（A3 4枚）、QOLを測定するSF-8（A4 2枚）で構成されています。

4) 調査票の配布と回収

調査の配布・回収の方法については、自治体の担当者様と相談させていただきたいと考えています。COVID-19感染拡大防止の観点から、対面での調査ではなく郵送による調査も可能です。

5) 費用負担

ご協力いただく市町村様の費用負担はありません。

4. 問い合わせ先・研究担当者 山谷麻由美（聖路加国際大学大学院・前長崎県立大学）

e-mail : 18dn019@slcn.ac.jp

調査へのご協力をよろしくお願いたします。